

令和3年度 第1回甲賀市図書館協議会会議録

1. 日 時：令和3年10月22日（金） 午後7時～午後8時30分

2. 場 所：甲南図書交流館 ゆめ工房

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 山添 智子 辻 聡 富山 由美子
地村 千里 松本 佐知子 山崎 喜代美 中村 ひろ子
山中 ルミ

【事務局】 田村次長 岡崎参事 香取館長 篠原館長
片岡館長 今村館長 奥山館長

傍聴者なし

4. 次 第：（1）教育長あいさつ

（2）委嘱状交付及び自己紹介

（3）会長・副会長選出

（4）議事

① 令和2年度甲賀市図書館活動報告について

② 令和3年度甲賀市図書館実施事業計画について

5. 内 容

（1）教育長あいさつ（次長代読）

本協議会も当初8月27日に予定していたが、感染拡大が落ち着くまで延期させていただいたため本日の開催となった。

本協議会は本市の図書館運営について幅広くご意見を賜る機関として、図書館法に基づき設置させていただいている。今日まで、図書館サービスの向上につながる様々なご提案を賜っている。この度は委員の就任をお引き受けいただき心からお礼申しあげる。

図書館においてもコロナ禍ではあるが、現在は感染者も減少しており、貸出冊数や来館者数はコロナ以前の状況に戻りつつある状況である。また6月からは湖南市図書館との相互利用も開始させていただいている。今後も引き続き感染対策等を講じたいので、図書館サービスの充実を図っていききたい。

教育委員会では平成29年度に教育大綱を改定し、教育施策の柱に「いつでも、どこでも、だれでも学びあえる生涯学習環境の充実」「子どものときから本に親しむことができる環境づくり」をあげさせていただき、図書館事業の充実に努めているところである。

多くの子どもたちが読書に興味を持ち、習慣となるためには、図書館が大きな役割を担うとともに、ボランティアの方々や、学校、園、社会教育施設、関係機関などと連携した中で子どもたちを支えていくことが重要であると考えている。

今後も、本市がめざす図書館運営の実現のため、皆様の忌憚のないご意見、ご提案などを引き続き賜りたい。

(2) 委嘱状交付及び自己紹介

(3) 会長・副会長選出

会長に大西正泰委員、副会長に山崎喜代美委員を選出。

(4) 議事

① 令和2年度甲賀市図書館活動報告について

[令和2年度甲賀市図書館活動報告に基づき事務局から説明]

【質疑・意見】

会 長：今の説明に対して、質問・意見をお願いしたい。

会 長：こども読書通帳の報告のなかで、50冊を達成した児童数が減っているとのことだったが、なぜ減ったのか。

事務局：1つ目の理由は、図書館が緊急事態宣言により1カ月間全館休館にしたので子どもたちが図書館に来られなかったこと。2つ目の理由は、移動図書館車の学校への巡回が4月から6月まで行けなかったことによる。子どもたちには、家の本や学校図書館の本を読んでも読書通帳に記入してもいいと言っていたが、学校の休校などもあり、50冊達成者が減った。

会 長：こども読書通帳事業は、なかなかいい企画だと思うが、50冊達成者が減ってくるとさみしい感じがする。平成30年度以降、少しずつ減っているのが気になっている。学校での読書に対する取り組みが変わったのか、また、他に原因があるのか。

事務局：学校の方でも、取り組みにすごく協力いただく年とそうでない年があるため、年度当初に行っている学校図書主任・学校図書館司書会議のなかで読書通帳についてお願いしている。

読書通帳の「みんなに紹介したい本」のページで紹介された本を校内放送で児童に読んでもらったりしてから、達成者が少しずつ伸びてきたが、最近、少し減ってきている。頻繁に本を読んでいる子は、5冊目・6冊目が終わったと言って持ってきており50冊を達成することを励みにしている。はじめは感想に「おもしろかった」としか書いていない子どもが、「こんなところが、おもしろかった」など自分の感想を細かく書くようになった。大きくなったとき、読書記録にもなるので、これからも読書通帳をPRしていきたい。子どもたちが読書通帳を持ってきたときに、ハンコを押しているが、単に押すのではなく、ひとこと掛けて押している。

会 長：先生は読書通帳を見ないのか。

事務局：学校図書館司書にはハンコを渡してあるので、押している場合もある。また、先生が読書通帳を見てくださいしている学校もある。

会 長：先生がひと言フィードバックしていただければ、もう少し、みんな頑張るかもしれない。

事務局：学校全体として取り組んでいただいた年は、子どもの意識も高くなり、達成者も多かった。

委員：勤務していた大野小学校では、50冊読み終わると校長のところへ読書通帳を持ってくるので、小学校で作ったA4判の読書カードを校長から渡していた。

100冊・200冊を読み終わると全校集会で表彰していた。300冊以上も読んだ児童もいる。担任の先生がカードを渡すときもあったが、読書通帳を全部見るのはきびしいと思う。湖南省の小学校でも勤務していたが、子どもの読書については、同じようなことをしていた。本を読む児童は、移動図書館をとっても楽しみにしていたが、読まない児童に対しては、朝の読書の時間などを活用して読む環境をつくっていた。学校の規模やークラスの人数などによってアプローチの仕方が違ってくる。

中学校にも勤務していたが、特に中学3年生の読書時間の確保が難しい。市内多くの学校で朝の読書活動をしているが、中学3年生は朝の読書活動の時間に、受験勉強のためにいろいろなことをするときもある。朝の読書活動時間にこれらを入れないと、それが放課後に食い込んでいき、全部に支障をきたすことがある。朝の読書活動の時間がとれないと、読書冊数が減ってくる。このため朝の読書活動の時間は10分であるが、大変貴重な時間であると思う。

会長：図書館も学校も頑張っているのに全体的に達成者が減っているのはさびしい。何かできることはないかを考えていただきたい。図書館としてできることは限られていると思うが、ちょっと背中を押してあげると、頑張る子もいるのではないか。

委員：小学校では、読書通帳の「おすすめ本」の欄のところを壁に張っていると聞いた。実際に小学校に行くと、「おすすめ本」のところがコピーして張ってあった。外国籍と思われる子どもの感想も一生懸命に書いてあり、すごいなあと思った。「図書館や図書室で本を勧めてもらって読んだのかなあ」と想像しながら見ていた。

副会長：私の職場は児童クラブなので、学校からの通知もいただくことがあり、学校と連携した取り組みも行っている。少し前には、学校が朝の読書活動に力を入れていたので、児童クラブでも本を読む時間を強制的につくった。そうすると子どもたちも落ち着いてきた。私の勤務している児童クラブは、保護者会で運営しており、本の購入に多くの予算を使わせていただいている。児童クラブで読む本は、親子で買ってきた本や、歴史などの漫画も認めている。子どものときに本を読む習慣をつけると、大人になっても本を読むようになると思う。

ヤングアダルトの年代の読書を考えてみると、図書館は受験勉強などをするところではないと聞いているが、飛騨高山の図書館では、中学生や高校生が図書館内の自習室で受験勉強をしている。その光景が、とても素敵だった。甲賀市もそのような図書館が1館ぐらいあってもいいのではないか。水口図書館も周辺に高校が多い。守山市図書館が改築されたときも、近くの高校に通う生徒が朝から並んでいた。生徒は「図書館に行きたい」とのことだった。そのよう

なことから、来館者数の把握も必要で、活動報告書の中に来館者数もあってもよいと思う。図書館は素敵なところで勉強ができるなど、引きつける何かが必要だと思う。また、期間限定でもいいので、忍者の資料が揃っているなど、特長を持った図書館があってもいいと思う。

事務局：自由学習スペースについては、従来から甲南図書交流館と甲賀図書情報館にあったが、水口図書館、土山図書館、信楽図書館も令和2年4月から設置した。水口図書館は2階、土山図書館・信楽図書館は会議室などを活用し、自由学習スペースにした。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自由学習スペースも1時間以内の利用となっているが、土日には多くの利用がある。

副会長：滞在時間を制限されると行きにくくなる。図書館は本を借りるだけでなく、本を選んで、図書館でゆっくりと読みたい人もおられると思う。

委員：水口図書館では子どもが本を読むスペースのところに、いつもおじいさんが長い時間、テーブルに新聞など広げを読んでおられ、子どもが使えないことがあるので気になっている。

会長：そのような場合、図書館職員は注意をしないのか。

事務局：子どもが来ているときには、「雑誌コーナーがあるので、そちらをお使いください」とお願いしている。

委員：コロナの関係で、座る席が減っており、閲覧したい人は、子どもの席が空いていたらそちらへ流れていくのではないか。

会長：年齢別貸出冊数のところで、40歳代に比べ50歳代の貸出冊数が大きく減っている。この差をどのように理解すればよいか。この表から何か対策を立てることはできないか。

事務局：30代、40代の方は子育て世代であり、親子で来られることが多い。

会長：男女別・年齢別の貸出冊数が分かれば、傾向がつかめ、本の購入や配架で対策が立てられると思う。

事務局：甲賀市図書館では、利用登録のときに性別を書いてもらわないようにしている。利用登録用紙には性別欄がない。

事務局：私は、子どもが小さかった頃、子どもの本も借りたついでに自分も借りていた記憶がある。今は50代になり、貸出冊数が落ち込んでいる年代に当てはまるが、子どもと一緒にいた頃よりは、図書館へ行く回数が減った。そのようなことも、50代の利用が減った一つの原因になっていると思う。

会長：今年度に来館者アンケートを取ったと思うが、結果が出るのはいつ頃か。

事務局：今、まとめているところである。来館者アンケートには男性・女性を記入する欄を設けている。

会長：アンケートから、50代の貸出冊数が落ち込んだ原因が分かるかも知れない。

② 令和3年度甲賀市図書館実施事業計画について

〔令和3年度甲賀市図書館実施事業計画に基づき事務局から説明〕

【質疑・意見】

委員：若い人が、電子書籍をタブレット端末で読んでいるのを見かけたことがあるが、電子書籍はどのように購入するのか。

事務局：一般的な電子書籍については、無料で読めるものや、購入して読むものがある。現在、多くの若い人が読んでいるのがマンガであり、出版数も増えている。一般書の電子書籍はまだ発展途上であるが、マンガから本へと敷居を低くして、若い人にも本を読んでもいただくきっかけになる可能性はある。

委員：今、子どもたちはタブレット端末を持って勉強をしている。そのような世代が大きくなってくると、電子書籍やタブレット端末が身近なものになる。そのようになってくると、図書館で紙の本を借りないで、タブレット端末に期間限定で本を入れてもらうようになるのか。

事務局：図書館の電子書籍は、専用のページからアクセスして読んでいただくが、返却期限がくると読めなくなる。

また、若い方だけでなく、体が不自由で図書館に行きにくい方や、視覚に障害があり文字が読みづらい方、手が動きにくくページがめくりづらい方などにも、電子書籍は有効であると思われる。紙の書籍も大切にしながら、いろいろな方への多面的なサービスも展開していくことを考えている。

会長：電子図書館は、湖南省で利用登録をすると使えるようになる。私も使っており、利用できる本は多くないが、雑誌などもある。使い方は、本を選び「借りる」をクリックすると自分のパソコンにダウンロードされ、読めるようになる。誰かが借りている場合にはリクエストができる。リクエストした本が返却されれば、自分のポストのようなものに入ってきて、ブラウザで開くと読むことができる。ぜひ、湖南省で利用登録して電子図書館を体験していただきたい。

事務局：会長からもおっしゃっていただいたが、今年の6月から湖南省の図書館が広域連携で使えるようになった。本を湖南省で借りた場合は、湖南省で返さなければならないが、湖南省の利用カードをつくれれば、電子図書館が利用できる。先ず湖南省で登録いただき、電子図書館を利用いただき、ご意見をいただければと思う。広域連携から4カ月経過し検証をした。立地的なこともあり、甲賀市の方が湖南省の図書館で利用登録されることが多い。水口地域は湖南省と隣接しているため、湖南省の方もたくさん利用していただいている。湖南省の方が甲賀市の図書館の利用登録をすると5つの図書館が使えるので、図書館を巡っている方もおられる。今後も検証を続けていきたい。

委員：私は電車で通勤している。昔は、電車の中で新聞を読んでいる人が多かったが、今はタブレットを見ている人が多く、一番多いのはゲームをしている人、次に多いのはマンガを読んでいる人、さらに、電子書籍を読んでいる人も多い。電子書籍を使っている人は多いと感じた。今は、新聞もタブレットで読まれている。

会長：他に質疑がなければ、協議会はこれで終了する。